

こんにちは 町長です

ポストコロナに向けて～オートバイによるまちおこし事業について～



国は新型コロナウイルス感染症を感染症法上の分類について、本年5月8日から現在の「2類相当」から季節型インフルエンザと同じ「5類」に引き下げる方針を固めたと発表いた

しました。

このことから、人の動きはより活発化し、小鹿野町への交流人口、関係人口の増加が予想されるところです。

小鹿野町は首都圏に含まれており、大きな消費人口を獲得できるチャンスに恵まれていると思います。ポストコロナに向けてもう一度交流人口、関係人口増大の足固めをしていかねばなりません。

そうした中で、小鹿野町が合併して以降取り組んできた全国的にもユニークで先進的な事業である「オートバイによるまちおこし事業」を再活性化していく必要があると考えています。この事業をはじめた2006年当時は、小鹿野町に来町するオートバイライダーの数が年々増加傾向にあった状況で、その要因として小鹿野町が首都圏からの日帰りツーリングに適した距離、時間であったことや、団塊世代の大量退職時代が到来する中で経済的、時間的にもゆとりある世代が出現し、大型バイクに乗るブームが到来していたことなどが挙げられます。

しかし、オートバイライダーは暴走族に代表されるような不良、迷惑者という負のイメージが強かったことから、騒音や交通事故の発生などを危惧する声も多く聞かれました。しかし、近年では小鹿野町に来町するオートバイライダーは紳士的なライダーが多いことや免許制度の改正による、

女性ライダーの増加などから町としてライダーを温かく迎え、気持ちよく帰ってもらい、また来てもらうよう「おがのウエルカムライダーズ構想」を練り上げ「オートバイによるまちおこし事業」を展開してまいりました。具体的にはライダーズカフェやオートバイ専用駐輪場を商店街の中に整備して町中への誘導や回遊性を高め商業の活性化を図ったり、ロゴマーク、ライダースマップ、テーマソングの制作や、地元警察署と協働しての交通安全啓発事業の実施などを進めました。また、小鹿神社はライダー御用達の交通安全祈願の神社としての取組も始まっており、全国から大勢のライダーに参拝いただいております。

そして、この事業の推進母体となる団体「ウエルカムライダーズおがの」を町民の有志で組織し、東京モーターサイクルショーへの出展や誘客イベントなどを実施してオートバイライダーにやさしい小鹿野町のPR活動などを行っていただいております。更に小鹿野町が地元旅館グループに賃貸借した旧クアパレスおがのでは、昨年バイク関連の食堂出店や企業ブースの出展などがあり民間事業者の手により「バイクの森」としてリニューアルされ、多くのオートバイファンで賑わっています。

今後も引き続き、小鹿野町の特色あるまちづくりのひとつである「オートバイによるまちおこし事業」を進め、交流人口・関係人口の増大を図り、地域経済の活性化につなげるよう努めてまいりたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎